平成２６年１月１日

第１１８号

# 関東の森林から

国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/

パインズパークから諏訪森越しに初冬の富士山を望む（山梨県富士吉田市）

（撮影者：山梨森林管理事務所　大野　翔）

## 年頭のご挨拶

関東森林管理局長　須藤　徳之

## 私と国有林「国有林を活用した環境活動の継続性について」

公益財団法人　三菱ＵＦＪ環境財団
「水源の森」事業担当　山本　克明氏

# 年頭のご挨拶

関東森林管理局長　須藤　徳之

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

午年の２０１４年を迎え、跳ねる馬のごとくこの一年間の皆様方のご隆盛をご祈念申し上げます。

本年は、国有林野事業が特別会計から一般会計へ移行し２年目となります。

公益重視の管理経営のより一層の推進、我が国の森林・林業再生への貢献を旨とした事業運営の定着と、その事業成果を現していく年となりました。

また、昨年は、総理大臣を本部長とする「農林水産業・地域の活力創造本部」が設置され、農林水産業を成長産業とするべく「農林水産業・地域の活力創造プラン」がとりまとめられるとともに、農林水産省においても、林大臣のリーダーシップの下で「攻めの農林水産業推進本部」が設置され「攻めの農林水産業推進本部とりまとめ（重要事項）」が決定されました。

この中で、森林・林業・木材産業に関しましては、林業の成長産業化、国産材の供給倍増を目指して、資源としての充実期を迎えた人工林を活用しつつ、ＣＬＴ（Cross Laminated Timber：直交集成板）等の新製品・新技術の開発・普及、公共建築物等での国産材利用の推進等による木材需要の創出、国産材の安定供給体制の構築等を進めることとしております。

平成26年度概算決定においても、新たな木材需要の創出と強い林業づくりを目指した各種施策が盛り込まれたところです。

関東森林管理局においても、民有林・国有林の連携を拡大し①国産材の安定供給、木質バイオマス資源の活用などニーズに対応した協定体制を拡大することによる国産材の安定的・効率的な供給体制の構築の支援②森林共同施業団地の設定等民国連携による施業の推進を通じた施業集約化の支援③シカの食害等野生鳥獣被害への効果的・効率的な対策の推進④東日本大震災からの復旧・復興への取組等に取り組んでいくこととしています。

また、国産材の安定的・効率的な供給体制の確立及び野生鳥獣被害対策は表裏一体の関係にあり、主伐後の再造林と獣害対策を効率的に行っていくことが必要です。

このため、民有林や関係省庁・自治体関係者とも連携しつつ、コンテナ苗を活用した伐採・造林の一貫作業システム、シカの個体数管理に有効なシャープシューティングの実行など、新たな技術に積極的に取り組んでまいります。

さらに「東日本大震災」からの復旧・復興につきましては、関係自治体等と連携して国有林内の除染を確実に進めるとともに、福島県内の被災地の多くが森林・林業・木材産業に深い関係のある地域であることを踏まえ、関係機関等との連携のもと、ふくしま森林再生事業や、被災した海岸防災林の整備等を通じ、被災地の復旧・復興に全力を尽くす所存です。

なお、昨年６月には富士山が世界文化遺産として登録されましたが、このほか管内には世界遺産として小笠原諸島があります。

世界遺産としての普遍的な価値が維持されるよう、関係機関や地元関係者等と連携し、小笠原諸島においては外来種の駆除対策等の保全・管理、富士山においては景観の保全等に取り組んでいきたいと考えているところです。

多岐にわたる役割を担っている管内国有林を今後とも国民共通の財産として適切に管理し、国民の皆様からの負託に適切に応えられるよう、関係する機関や都県、市町村、林業関係者等と連携を密にさせていただきながら、事業展開を着実に図ってまいりたい所存です。より一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸を重ねて祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

# コンテナ苗を活用した「一貫作業システム実証試験」

森林整備部　技術普及課

森林・林業の再生及び持続的な森林経営の推進を図るためには、作業コストの削減による採算性の向上が不可欠となっています。

関東森林管理局においては、今年度から新たに低コスト造林技術の開発を目的として、コンテナ苗を活用し、木材の生産から造林作業までを一体的に行う作業システム「一貫作業システム」の開発のため、茨城森林管理署管内に試験地を設定し、茨城森林管理署、森林技術・支援センター、独立行政法人森林総合研究所が共同で、平成25年度から27年度までの３年間で実証試験を実施しています。

実際に「一貫作業システム」とはどのようなものなのか理解していただくため、10月１日に、伐採作業から、集材、造材、搬出、コンテナ苗の運搬、コンテナ苗植栽までの作業工程を現地デモンストレーションを行いました。

この取り組みについては、林業関係者の関心も高く、茨城県や関係市町村をはじめ、地元林業事業体等約百二十名の参加がありました。

今回の実証試験は、茨城森林管理署の製品生産請負事業実施箇所である梅香沢国有林において、事業を請け負った美和木材協同組合に協力をいただき、茨城県林業種苗共同組合で育苗した植替え２年生のスリットコンテナ苗を使用し、植栽はスペード、ディプル等の専用具を使用して実施しました。

この方法を採ることにより、従来の人力による地拵え、苗の搬入が省力化できることになります。

さらに、木材生産実施年の翌年の春に実施していた植栽が、木材生産期間内に作業できることから、生産事業と造林事業の契約を一本化し、計画的な植栽や下刈回数の削減など、低コスト化を図ることが期待されています。

これからも関東森林管理局では、今回実施したコンテナ苗を活用した「一貫作業システム実証試験」をはじめ、低コスト化に向けた様々な取り組みを進めてまいります。

## 一貫作業システムの流れ

①伐採

②木寄せ集材及び地拵え
グラップルによる集材を行いながら、アームの届く範囲の地拵え

③枝払い及び造材
プロセッサによる枝払い・玉切

④積み込み
グラップルによるフォワーダへの木材積込み

⑤運搬
フォワーダによる土場への木材搬出、土場から伐採現場への「コンテナ苗」運搬

⑥植栽
専用具で地拵えが済んだ箇所に植栽

# グリーンサポートスタッフの活動について（その２　富士山）

## 計画保全部　保全課

関東森林管理局では尾瀬沼、那須岳、谷川岳、苗場山、高尾山周辺、富士山、小笠原諸島など11署（所）21地区で約90名の森林保護員（グリーンサポートスタッフ、以下、ＧＳＳという。）が従事しています。

前回（本誌１１６号）に引き続き昨年６月に世界文化遺産に登録された富士山で活動しているＧＳＳの取り組みについて紹介します。

### 富士山での取組

富士山では、富士宮口、御殿場口、須走口を中心にＧＳＳ活動を２名一組の６名体制で行っています。

主な活動は、登山道等でのルート案内、歩道以外への立入り注意、自然保護の啓発、危険木等の確認と処理、危険箇所の表示など、利用者が安全に森林レクリエーションを満喫できる環境づくりに心がけ、入込者が多い期間及び休日等を中心に巡視活動を行っています。

遊歩道の点検

### 世界文化遺産登録後の変化

ＧＳＳの方々に世界文化遺産となった以降の富士登山者について感じた意見を聞かせていただいたので紹介します。

一点目は、富士山は手軽に登山ができる山と思い込んでいるのか、軽装で弾丸登山をする人が多くなり体調を崩してしまう登山者が目に付きます。

また、混雑している登山道で登山者の間をジグザグに縫うように追い越しをしている登山者が多くなりました。

以上のように、マナーやルールを守らない登山者が多く見受けられます。

二点目は、景観と自然環境（ゴミ問題）について、登山者や観光者は誇りと責任を感じてか自分のゴミは持ち帰るようになり、昨年まで各登山口に大量に捨てられていた使用した杖、空き缶等のごみは見受けられません。

また「富士山を守らなければならない、きれいにしなければならない」との思いが高まり、富士山周辺で実施される清掃活動にも多く参加者が集うようになったように思えます。

宝永山に向かう登山者（富士宮口）

西臼塚駐車場から富士山を望む

### 今後について

ＧＳＳの方々は、登山者等が安全で楽しい思い出を作っていただけるように、後世に美しい富士山を引き継いでいく手伝いを行っています。

「関東の森林から」をご覧になった方で富士山周辺を訪れＧＳＳがパトロール等の業務を行っていたら「ご苦労様」と一声掛けて頂ければ幸いです。

## 幹部の紹介

### １月１日付け（　）は前職

**森林管理署長**

▽磐城森林管理署長　中澤　文彦（関東森林管理局利根沼田森林管理署長）

▽利根沼田森林管理署長　永井　寛（林野庁林政部林政課監査官）

# 赤谷の森から

## 市民参加のモニタリングで見えてきた赤谷の森

赤谷プロジェクト（以下「プロジェクト」とします。）では、様々なモニタリング調査活動をして10年目になります。

こうした調査が続けられたことは専門家の先生や学生の皆さんに協力して頂けたことと、サポーターとして参加して頂けた一般市民の皆さんの力によるものです。

特にホンドテンモニタリング（以下「テンモニ」とします。）は、サポーターが中心となり、毎月の「赤谷の日」等で、林道を歩いてテンの糞のサンプリングをしてくれました。

今回はその成果で見えてきた赤谷の森を紹介します。

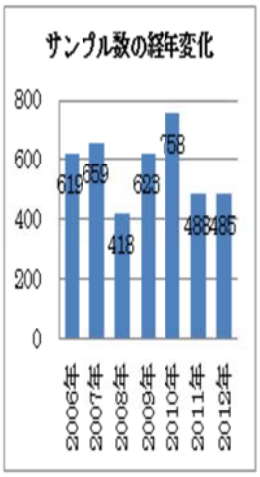
冬のホンドテン

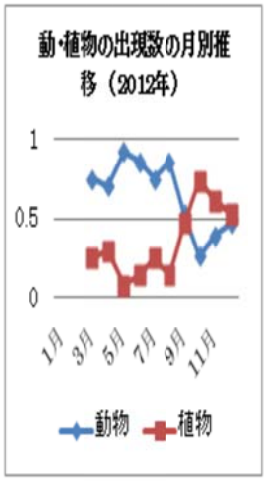
## 赤谷の森のテン個体数は一定

テンのサンプル（糞）の採取は調査開始以来４０００個を超えています。

このサンプルは、応用生態技術研究所（所長　足立高行）へ送付して解析して頂いています。

解析結果とテンの習性からみると、赤谷の森は年間を通じて餌環境が安定しており、動物食が中心です。動物類では、ネズミと昆虫類が優先しています。




植物類では、ヤマグワ、ウワミズザクラ、サルナシ、ツルウメモドキなどが目立ちますが、中でもサルナシは主要な餌植物です。

テンは特定のテリトリーを持たず森林を移動しています。

これは糞のＤＮＡを解析してわかりますが、毎年の調査ルート毎のサンプリング数をみると、サンプリング数量が一定していることから、個体数の変動は見られないことがわかりました。

## わかりやすい調査マニュアル

サンプリングは調査員による違いが出ないように足立所長が作成したマニュアルを基にテンモニを行うことにしています。

今年は、サポーターの意見も取り入れて、より正確かつ簡易な方法となるようマニュアルを更新しました。

マニュアルには採取用具、採取方法、記録の取り方がわかりやすく記載されています。

11月の赤谷の日では、ビジター向けのテンモニ体験を行ったところ、「テンモニをしながら自然環境を見ると、今まで気が付かなかった森林の変化がわかるなど、思っていた以上に参考になって楽しかった」という感想も寄せられ、今後テンモニ仲間が増えることを期待しています。

テンモニの調査に使う道具

## テンが安心して暮らせる環境

テンが安心して暮らせる森林環境は、餌となる動植物が安定して生息・生育している証しです。

もし、モニタリングデータに大きな変動があった場合は、そこの森林環境に何らかの変化が発生していることが予想されます。

こうしたことから、テンの生息環境が保全されることは、森やそこに生息、生育する多くの動植物が保全されていることを意味しており、このことが生物多様性の評価につながるのではないかと考察しています。

この活動についての詳細は、平成26年２月12日に開催される平成25年度森林・林業技術等発表会に森林ふれあい部門で発表します。

是非傍聴しに来て下さい。

林道上のサンプルを採取するサポーター

# 私と国有林

## 「国有林を活用した環境活動の継続性について」

公益財団法人　三菱ＵＦＪ環境財団
「水源の森」事業担当　山本　克明

「ザーッ、ザーッ（鋸で木を切る音）」「ピッピー（周りに危険を知らせる笛の音）」「メキメキメキ、ギーー、ドドーン（木が倒れる音）」その後に起こる参加者の歓声「やったー」「凄い迫力だね」「鋸でこんな大きな木が倒せるなんて感動ものだね」私どもが、毎年群馬県利根郡みなかみ町藤原の国有林内で行っている体験活動事業「自然ふれあい楽習」での一コマです。

当財団は、三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループの社会貢献活動および環境への取り組みの一翼を担う財団として、環境の保全及び環境教育を通じて公共の福祉の増進に寄与することを目的に、環境保全整備事業、環境教育事業、体験活動事業などの様々な活動を長年にわたり行っています。

その体験活動事業の中で、市民生活に大切な水を育むみどり豊かな森を守り育てるとともに、一般市民・児童を対象に林業体験活動や自然観察会等を行うことによって、自然とのふれあいや自然の中での体験活動の場を提供しています。

平成９年に国の「法人の森林」制度を活用して、群馬県利根郡みなかみ町藤原に「水源の森」をオープンしました。

利根川の最上流域の支流の一つである「湯の小屋川」沿いにあり、首都圏の水瓶として知られる奈良俣ダムや藤原ダムの集水域に位置しており、広さは約15㌶、標高９００㍍～１２００㍍で、下流域はカラマツ、スギの人工林、上流域がブナ、ミズナラ、ヒバ、ヒメコマツ等の天然林からなる混交林で、ニホンカモシカや熊など多くの動植物が生息する生態系豊かな森です。

林業体験活動の様子

毎年、一般市民参加型の「自然ふれあい楽習」小学校向けの「林間学校プログラムとしての自然体験学習」ボランティア団体等への「環境教育・林業体験イベント」等を年10回ほど開催し、毎年延べ５００名の方々が参加されています。

「水源の森」事業の主要イベントである「自然ふれあい楽習」は、過去15年以上にわたり、毎年、初夏・夏・秋の年３回開催し、除伐、下草刈り、植樹等の林業体験や、地元のベテランガイドによる自然観察会を行っています。

「水源の森」での自然観察会

参加した方々からは「貴重な体験ができて嬉しい」等の意見も数多く寄せられるなど大変好評を博しています。

ここ数年、「サスティナブル（持続可能）な社会づくり」という言葉が、環境に関連した様々な場面で叫ばれています。

その様な社会づくりのためには、「水源の森」の様な自然体験活動場所での直接的な関わりを通じて、特に次世代を担う若者に対する環境への関心を高める活動を継続させていくことが不可欠です。

これからも利根沼田森林管理署と連携・協働し、持続可能な社会づくりに貢献するため、引き続き市民参加の森づくりを目指してまいりたいと存じます。

「水源の森」広場での木工体験

# 森づくり最前線

磐城森林管理署　遠野森林事務所　森林官　中島 豪威

私が勤務する遠野森林事務所は、福島県南東部のいわき市遠野町に所在し、管理する国有林は約３８００㌶で標高３５０㍍～７６０㍍の山間部に位置しています。

また、小面積ですが磐城海岸県立公園にも指定されている小名浜港に隣接する一部も管理しています。

平成23年３月11日に東北地方を襲った東日本大震災では、当地域も津波等により被災しましたが、管内の国有林では、林道に法面崩壊等の被害はあったものの、大規模な山地崩壊等はありませんでした。

管内の国有林は、スギを主とした人工林が多くを占めており、分収造林や分収育林の契約面積が１９０㌶と多いのも特徴です。

現在、管内で設定された分収造林の多くは伐期を向える林分で、伐採が順次行われ、新植された箇所では苗木がすくすくと育っています。

また、ほとんどの森林が水源涵養等の保安林に指定された地域で水源の確保、国土の保全に役立っています。

そのため様々な事案で地元の方々と打合せを行うことが多く、地域と密着した森林事務所です。

また、当地方は林業が盛んで、いわき市遠野町には福島県森林組合連合会が運営する「いわき木材流通センター」があり、震災復興に向け平成24年度は、国有林が生産した８千８百㎥を含む５万７千㎥の木材が流通しています。（分収造林、分収育林から生産された木材も供給されています）

国有林としても、スギ、ヒノキ等の間伐を適切に行い、木材を市場に流通させることにより、震災復興及び景気対策にも貢献しています。

地元で、観光名所として紹介されている往生山（おうじょうやま：５９９㍍）は、春になるとヤマザクラが山全体をピンク色に染めます。

名前の由来も、裾野から見た咲き誇るヤマザクラが「極楽浄土の世界のようだ」ということからつけられているそうです。

県道いわき・上三坂線からも見ることができるため、シーズンになると多くの観光客が訪れます。

また、管内の東端には、いわき市民から「ふるさとの山」として親しまれている湯ノ岳（５９４㍍）があります。

その山頂近くには３６０度のパノラマが可能なポイントがあり小名浜港を含む海岸線や三大明神山や天狗山が一望でき、海と山の眺望を一度に楽しむことができます。

当森林官になって１年５ヶ月となりますが、現場の仕事は同じ業務でも現地の状況に応じてより適するものを選択して実行していかなければなりません先輩方が実施した施業を参考に日々勉強しています。

先輩方より引き継ぎ後輩に自慢できる森林を育てていきたいと思います。

**写真提供**

**いわき木材流通センター**

**福島県森林組合連合会**

**小石平国有林「往生山」**

**いわき市遠野支所**

いわき木材流通センター

小石平国有林「往生山」

分収造林の生育状況

湯ノ岳から小名浜港を望む

# 管内のいちおしスポット

## 諏訪森国有林（すわのもり）

■ 山梨森林管理事務所　http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/yamanasi/index.html
〒400-0021　山梨県甲府市宮前町7-7
TEL:055-253-1339(代表)　FAX:055-252-9935

パインズパークから諏訪森越しに富士山を望む

諏訪森国有林は、山梨県南東部富士北麓、富士吉田市内の北口本宮冨士浅間神社から続く吉田口登山道沿いに位置しています。

寛永年間(1624～1643)に植栽されたアカマツ林を起源として天然更新が繰り返された森林で、樹齢250年以上の高齢アカマツの大径木が数多く残っている貴重な植物群落を形成しています。

このことから、大部分を植物群落保護林に指定しており、富士箱根伊豆国立公園、史跡名勝天然記念物にも指定されています。

諏訪森植物群落保護林

諏訪森アカマツ林は、雪代(ゆきしろ：積雪で凍結した表土が急激な気温上昇や豪雨等により融解し発生する土砂災害）から下流部集落の家や畑を守るために植栽されたという歴史をもち、富士北麓地域の人々の生活と密接な関係にあります。当所では適切な管理を行うため、平成24年1月に「諏訪森アカマツ林管理指針」を作成し保全活動に取り組んでいます。

諏訪森国有林の見所は、赤褐色のアカマツの幹と樹冠の緑がマッチした富士の夕日に映える景観です。また、季節により、新緑や冠雪の富士など、四季折々の変化を楽しむことができます。

林内には、文化庁から「歴史の道・百選」に選定された富士山吉田口遊歩道が整備され、富士登山の入口である馬返まで続いており登山者にも利用されています。

なお、この遊歩道は、世界遺産登録の基準「文化的景観」を認識するのに必要な富士山の自然・信仰・登山史を理解するための一助となることを願って「富士山再発見の道」と呼ばれています。

諏訪森アカマツ林は、平成25年6月に登録された「富士山世界文化遺産」の構成資産「富士山域」の構成要素である「吉田口登山道」に包含されています。

富士山が世界文化遺産に登録され、富士山麓地域がますます魅力的になっています。

四季折々の自然を楽しむことができる諏訪森国有林に是非一度訪れてはいかがでしょうか。

吉田口遊歩道

（山梨森林管理事務所　広報広聴連絡官　中澤文博）

■発行所　関東森林管理局
■編集　総務課
TEL（027）210-1158
FAX（027）230-1393